

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyl@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>[menu000000500/hpg000000416.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)

学校におけるコーチング

氷見市中学校長会 会長

氷見市立北部中学校 校長 湖 東 政 俊

ある日、何気なく本屋さんで手に取った本が「教師のほめ方叱り方コーチング（神谷和宏氏著）」であった。あるページを何となく読んでみた。

『もし、目の前に、掃除をさぼっている生徒がいたら、あなたならどのように声かけをしますか。』私は、自分ならどのような声かけをするだろうかととっさに考えてみた。すぐに「先生と一緒に掃除しようか?」という答えが頭に浮かんだ。自分の答えが正しいか知りたくなり、先を読み進めた。書いてあった内容は、要約すると次の通りであった。

A先生：「何やっているんだ！きちんと掃除しろ！」

B先生：「ここは、きれいになっているね。すごい！、すごい！」

多くの先生は、このような場合、A先生のような叱り方をします。そして、次の日もまた次の日も同じ叱り方をします。同じことを何日も繰り返すと、「うちの生徒たちはおかしい」とか「心が無い」などと思えてきます。挙げ句の果てには、子どもの人格を否定したり、他人に責任を転嫁したりするようになってきます。

しかし、コーチングの上手なB先生は違います。どんな状況でも生徒の良さを見つけて承認しようとし、します。「ここは、きれいになっているね。すごい！、すごい！」と言います。その生徒は、次の日には、せめてB先生の前だけは褒められるようにしようと思ひ、掃除をするようになります。2、3日そんな日が続いたとします。次にC先生に協力してもらい、サクラをお願いします。

C先生：「B先生が言っていたんだけど、あなたは掃除が大変熱心にできるみたいだね。すごく褒めておられたよ。」と声をかけます。その生徒はやがて、C先生の前でも掃除をしっかりとようになります。

このようになれば、「徐々に掃除をきちんとする機会が増え、やがては掃除をするのが上手になるなあ」、「生徒も先生もルンルン気分で学校生活を送ることができるようになるなあ」と思った。

前述の手法は、コーチングというものである。コーチングの基本は、「承認」から始まるという。コーチングの上手な先生のほめ方、叱り方は子どもをやる気にさせ、子どもの夢や希望を実現させる。コーチングには、次のような3つの特徴がある。

- (1) 子どもの無限の可能性を引き出すことができる。
- (2) 子ども自身の内側に隠れている本当の気持ちや考えを引き出すことができる。
- (3) 子どもは、先生や保護者がパートナーとしてサポートするほうが、自分の問題として考えていくことができる。

それでは、コーチングの手法を使うとどのような変化が生じるのであろうか。

- ①先生が変わる。
- ②先生が変わると子どもが変わる。子どもたちは、自分の夢や希望をもてるようになり、自分自身で課題解決や人生設計等ができるようになってくる。
- ③学校が変わってくる。
- ④保護者や地域の学校を見る目が次第に変わり、学校に対して好意的になってくる。

コーチングの手法を取り入れた教育活動への効果を期待し、北部中学校では、現在、「コーチングの技法」を取り入れた生徒指導を行うように心がけている。

「頑張ったね」「頑張ってるね」「すごいね」「すばらしいね」「期待しているよ」などを多用し、子どもたちの目標達成への意欲を喚起するほめ方等を心がけていきたいものである。

第2回教育セミナー

8月26日(月)

演題 「小中連携、小中一貫教育の現状と今後について」
講師 文部科学省初等中等教育局
教育制度改革室 室長補佐 金城 太一 先生

金城先生を迎えて「第2回教育セミナー」を開催しました。はじめに、西部中学校区における小中連携の取組について紹介があり、続いて、金城先生の講演がありました。金城先生からは、小中連携のねらい、全国の取組状況、その成果や課題などについて、数値をグラフ化し、分かりやすく紹介していただきました。また、教育課程特例制度や全国の研究開発校の取組、小中連携先進校や特色ある取組を実施している学校など、小中連携について多様な角度から紹介していただきました。



参加者からは、「小学校低学年でも、中学校を視野に入れ、学習を進めていくことの必要性を学んだ」「小中連携のねらいを『個々の児童生徒への適切な指導支援の接続』と捉えたとき、小中連絡会は年度末の実施に加え、年度はじめにも実施すべきであると思った」「9年間を通してどのような子どもを育てていくのか共通理解することが大切である。小中学校が互いの教育内容を知り、協力・交流を図っていきたい」などの感想が聞かれ、小中連携の必要性について理解を深めることができました。



氷見市の小中連携教育

<目的> 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導と生徒指導を目指す

- ・ 小学校から中学校への円滑な接続
- ・ 授業交流による教師の指導力向上と児童生徒の学力向上
- ・ よりよい生活習慣の育成と個に応じた支援の継続

<活動の経緯>

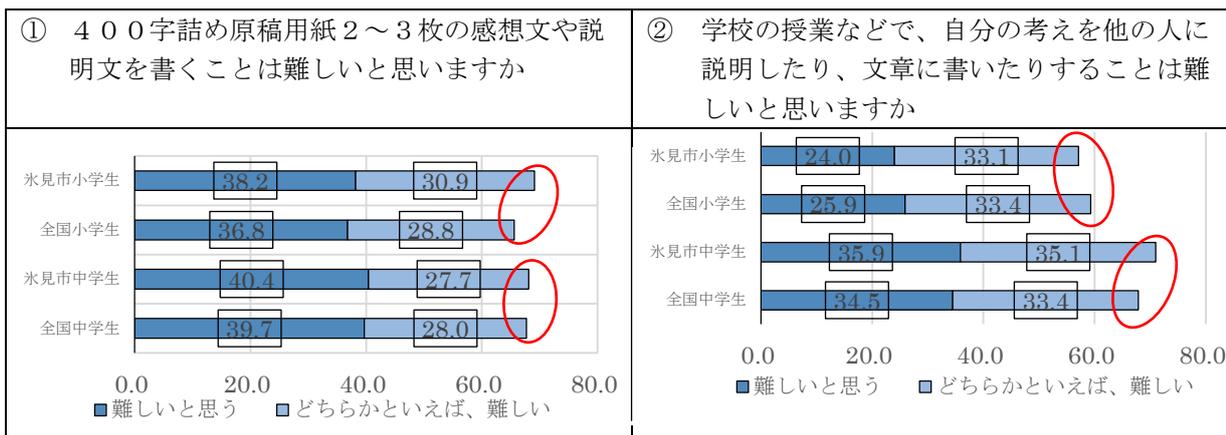
	組織・体制	学習指導等	生徒指導・関連行事
これまで	・各学校 ・教育総合センター(元教育研究所 小中連携教育推進委員会)	・小中教員による小学校外国語活動年間指導計画、指導案、教材づくり ・小中教員対象のアンケート実施 ・児童生徒へのアンケート実施 ・体験入学時の授業参観・授業体験 ・小中乗り入れ指導、出前授業	・学校行事への招待、交流 ・生徒指導情報交換会 ・合同美化・ボランティア活動、合同挨拶運動 ・家庭学習強調週間
H24から	・各中学校区で計画立案・実施 ・教育総合センター(小中連携推進チーム)	・学期に1回以上の乗り入れ指導を実施 ・リーフレット作成・配布	・小中連携シートを活用した情報交換会
H25から	・小中連携担当者の設置 ・教育計画に小中連携指導計画の位置付け ・合同行事計画表の作成 ・教育総合センター(小中連携学力向上研究推進委員会)	・乗り入れ指導と事後研修 ・各校の研修会への参加 ・テーマに基づいた教員合同研修会 ・校区小学校合同乗り入れ指導 ・4教科の小中学校系統表作成・配布(予定)	・小中共通の学習・生活上のきまり作成 ・複数回の情報交換会(入学前、入学後等)

小中連携教育は、学習指導と生徒指導を両輪として推進しています。今年度は、計画的な乗り入れ指導に加えて児童生徒合同の研修会や教員合同の研修会、さらに、小中連携を図った活動も実施するなど、各校区で特色ある連携を推進しています。

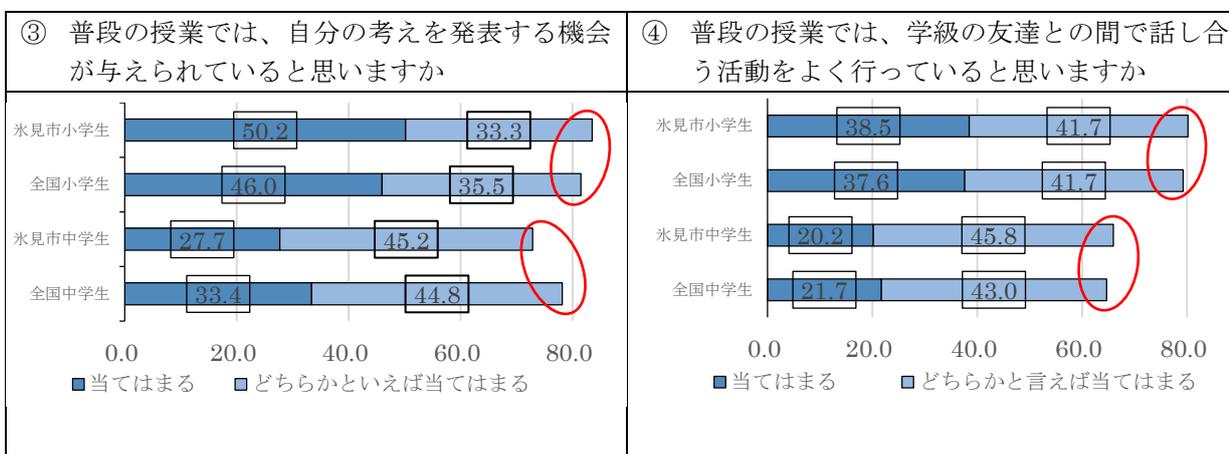
自分の考えを表現する活動の充実を！

今年度の全国学力・学習状況調査結果では、氷見市の小中学校において、全教科（国語 A・B、算数・数学 A・B）が全国平均を上回っていました。その中で、小学校国語 B と中学校数学 B の正答率が低く活用を問う問題に課題が見られました。

また、領域や問題形式別では、小中学校ともに国語の領域「書くこと」や記述式問題において他の領域や問題形式に比べて正答率が低い傾向にありました。「書く」を中心とした表現力に課題がありそうです。表現力に関する児童生徒質問紙の回答において、下記のような結果が見られました。



上記①の設問から70%近くの児童生徒が「書くこと」に苦手意識をもっており、②の設問のグラフに見られるように、「自分の考えを説明したり書いたりすること」を「難しく思う、どちらかといえば難しい」と答えている中学生が全国平均より9ポイント高く苦手意識が強い傾向にあります。



上記の設問③では、「授業で自分の考えを発表する機会がある」と答えている小学生は全国平均より2ポイント高くなっていますが、中学生は全国平均より5.3ポイント低くなっています。設問④の「授業での話し合い活動を行っている」では、小学生は0.9ポイント、中学生は1.3ポイント全国平均より高く、授業に話し合い活動が取り入れられていることが伺えます。ただし、中学校は小学校より話し合い活動が少ない傾向にあると考えられます。

子どもたちは、互いに話し合いながら考え、書きながら考えを深めていきます。その支援をしていくのが教師の役割です。今後、子どもたちが身に付けた知識・技能を基に、自分の考えを目的や条件に合わせて説明したり書いたりできる表現力の育成を目指し、授業改善をより一層進めていく必要があると言えるのではないのでしょうか。

教育相談の現場から

～ 傾聴 ・ 反射神経 ・ フットワーク ～

「生きる力」を育むために、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成が重視されています。これらの力を私たち教員こそ、身に付けなければいけません。教育相談に当てはめてみると、傾聴（全身全霊で聴き、相談の意図を汲み取り思考する力）反射神経（その相談にどう対応するか判断する力）フットワーク（思いを受け止め行動に移し表現する力）を磨くことが大切です。今回は、事例を通して、教育相談の基礎的・基本的な知識・技能を紹介いたします。教育相談の教材研究として、お役立てください。

事例に学ぶ その1 自傷行為

事例 小学校6年のA子さんが、「リストカットをやってしまった」と相談してきました。

リストカットをするとどうなるの？

リストカットには、「鎮静作用」があります。「からだの痛み」で、「こころの痛み」にふたをします。何か、つらいことがあったから、自傷行為に至っていることを忘れずに、つらい出来事を受けとめることから始めましょう。

自傷行為をする若者に対するときの心構え

- 1 「傷つけちゃだめ」は禁句 … 援助関係を築くことを重視する。
- 2 「よく相談してくれたね」 … 話してくれたことを受け止め、評価して支持する。
- 3 「そっか、そうやって乗り越えてきたんだ」…存在を承認する。自傷のメリットを理解し、共感的に対応する。
- 4 「あなたは違うかもしれないけど…」…エスカレートすることの「懸念」を伝える。
- 5 「もうしない」約束は結ばない…無意味な約束はしない。「裏切った」「約束を破った」と自分を追いつめ、援助関係を壊すことになる。

事例に学ぶ その2 非行行為

事例 中学校2年のBくんは、深夜徘徊を繰り返すなど非行行為が続いています。教師との面談では、反抗的な態度で答えています。

警察の方から教えてもらった話です。

非行少年に対しては、優しさと毅然とした態度が必要です。悪いことをしたら、罰せられるのが当たり前。しかし、心情に寄り添う姿勢は大切です。少年の感情や心情の変動を正しく見抜けるよう留意しています。

少年の言動をどう捉えるか

- 1 うそや言い訳が多い場合 … 自分を守るうそ、他人を守るうそ、つじつまを合わせるうそ。うそと決めつけず、うその本質を見抜く。
- 2 自分を正当化し、責任を転嫁する場合 … 耳を傾けることから始める。問いかける。「反省させると犯罪者になります」（岡本茂樹 著：新潮新書）にもあるように、「なぜこの子は問題行動を起こしたのだろうか」と一緒に考える視点が大切です。